

彦根城博物館だより

2010年
3月1日

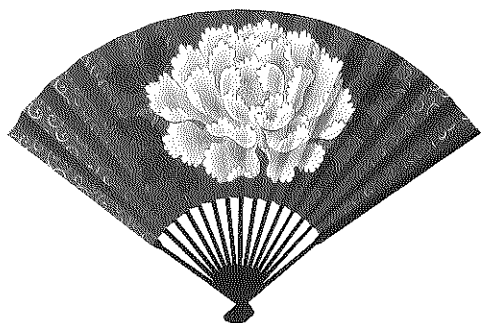
88

Hikone Castle Museum News

編集・発行 彦根城博物館

テーマ展 井伊家伝来・能の小道具

平成22年(2010年)3月12日(金)～4月13日(火) 展示室1



能の小道具は、^{おもて}面や装束と同じように必要に応じて使われますが、あまり注目されることはありません。しかし、時には場面設定を表現するなど演出に大きく関わることもあります。

本展では、井伊家15代直忠が^{たおただ}収集した扇や冠り物などの多様な小道具を中心に、能の幽玄の^{ゆうげん}世界に迫ります。

ギャラリートーク 3月13日(土) 午後2時～ 学芸員 降矢淳子

テーマ展 国宝・彦根屏風

平成22年(2010年)4月16日(金)～5月18日(火) 展示室1

近世初期風俗画の傑作として高く評価される「彦根屏風」。代々彦根藩主をつとめた井伊家に伝来したことから、広くこの名称で知られています。毛髪の本1本、絞り文様の1つ1つまでも表現した緻密な筆致、金地を背景とする洗練を極めた構図、江戸時代初期の一瞬を切り取ったかのような華やかな風俗、時代相を反映した静寂な空気など、魅力あふれる世界を堪能ください。

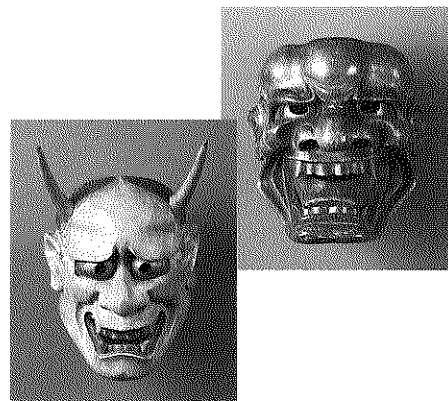
ギャラリートーク 4月17日(土) 午後2時～ 学芸員 高木文恵

テーマ展 ^{きじん}鬼神と^{りょう}霊 —能にみる異界—

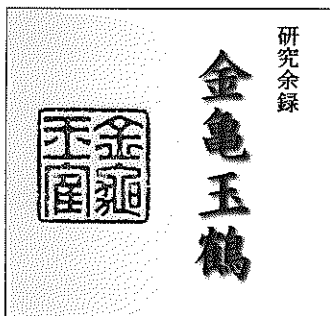
平成22年(2010年)5月21日(金)～6月15日(火) 展示室1

能に登場する鬼神と霊は、人間を超越した強さや恐ろしさで存在感を示し、見るものを異界にいざないます。鬼神は、力強く身体を動かす荒々しい風体の鬼や神を、霊は、般若がよく知られているように、暗い情念を持つ怨霊をいいます。本展では、井伊家伝来の鬼神と霊の能面を中心に紹介し、その特徴のある超人的な姿にせまります。

ギャラリートーク 5月22日(土) 午後2時～ 学芸員 降矢淳子



彦根藩足軽組辻番所に関する史料



研究余録

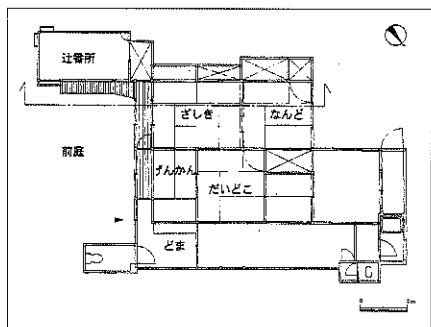
金龜玉鶴

これまで彦根市では、4軒の足軽組屋敷（太田家住宅、中居家住宅、旧磯島家住宅、林家住宅）と、1軒の足軽組辻番所を彦根市指定文化財に指定しました。このうち、辻番所は旧彦根城下で唯一の現存例と見られ、市民団体と彦根市との協力で保存が実現し、指定に至ったものです。

辻番所は、旧芹橋十二丁目（現芹橋二丁目）の角地にあり、足軽組屋敷（旧磯島家住宅）に隣接しています（写真1）。中の広さは4畳、現在は主屋と辻番所の間は縁づたいで行き来できますが（平面図）、かつては外からの出入り口があり、独立した空間であったことが建物調査からわかっています。番所がある交差点で道路がわずかに筋違いとなっており、番所の2つの窓からは道路を見通すことができます。



写真1 辻番所外観



足軽組屋敷・辻番所平面図
滋賀県立大学 濱崎研究室作製

足軽四十人組が5組、鉄砲足軽五十人組が1組、計37組1120人に編成され、さらに足軽を差配する手代が各組に2人、計74人置かれました。足軽が居住する足軽町は、北組、中組、鐘印町、上組、善利組、池須町組、中敷組の7カ所に分かれて、城下町の外周部の東部から南部にかけて帯状に配置され、外部からの侵入者に対する防衛ラインともなっていました。

写真2は、天保7年（1836）の「御城下惣絵図」（当館蔵）における善利組東部の様子です。街区は、1間半幅の道路により整然と区画され、南北の通り（図中の縦の通り）にそって間口が開いた均一な規模の屋敷が並んでいます。南北の通りは東から順番に数え、一丁

目から十三丁目まであり、約700軒からなる団地となっていました。写真は旧善利橋四丁目～八丁目の部分です。この絵図には辻番所は描かれていませんが、別の史料から判明する辻番所の位置を絵図になかに黒い点で示しました。街角の要所に置かれていることがわかります。辻番所の配置に完全な規則性は認められませんが、角地への設置は、城下の総合的な警備体制の中で位置づけられていたことを推測させます。

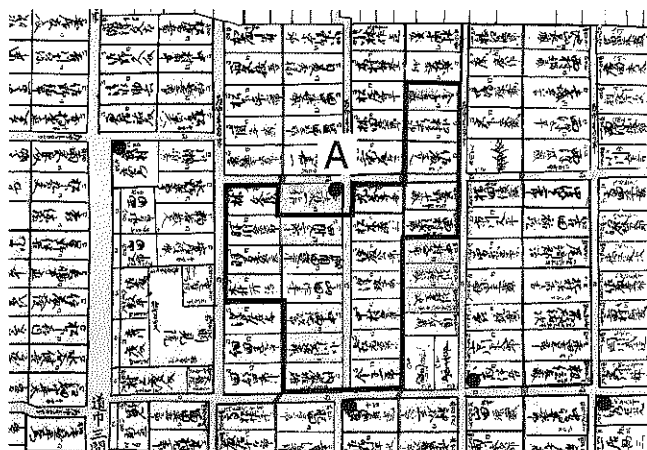


写真2 「御城下惣絵図」のうち善利組東部

辻番所の利用状況については、文化元年（1804）の「奥平源八火事割申渡書」（佐藤家文書。当館寄託）によってうかがい知ることができます。この史料は、弓足軽二十人組の物頭であった奥平源八が配下の手代2名・足軽20名に対し、城下町での火事に際し緊急出動するときの役割分担を申し付けたものです。火事場に直行する者（9名）、物頭の屋敷に駆けつける者（5名）、火消道具に付き添う者（2名）等の他に、「辻番に残り、組中火の元万事心を付ける」者2名が定められています（写真2の太線囲みが奥平配下の足軽組の範囲、●Aが辻番所の位置）。ここから、辻番所が足軽組によって管理され、かつ火災時に地区（＝組）の警戒体制の拠点として使われていたことが明らかとなります。また、申し渡しが、組織全体としての対応が求められる火事に関するものであることから、この辻番所の機能は他の足軽組すべてに共通するものであったと推測されます。また、組の範囲は、従来は一丁目から十三丁目の各通りの両側の屋敷によって一つの組が構成されていると思われていましたが、写真で示したように、善利組の場合、複数の通りに横断的な形で各足軽組が設定されていることもわかってきました。

足軽組屋敷、辻番所とそれらを含む足軽町全体は、彦根の城下町の不可欠な構成要素でした。一方、全国の城下町でこのような足軽町が残っているのはきわめて稀なことです。これらの文化財が貴重な歴史遺産であるとの認識が深まりつつある現在、史料を読み解き江戸時代の足軽町の様子をより具体的に明らかにしていくことは、これまでに増して重要な作業となると思います。（渡辺恒一）

受贈の資料

当館の収蔵品の核となるのは、代々彦根藩主であった井伊家に伝来した美術工芸品や古文書ですが、当館は、彦根の歴史や日本の古美術を扱う館として、その研究や展示の充実をはかるため、積極的に資料の収集を図っています。収集の方法のひとつに、寄贈いただくという形があります。

近年では、「井伊の赤備え」で知られる彦根藩士の甲冑、彦根藩の御用絵師が描いた絵画、彦根で焼かれた湖東焼、領民が藩主から拝領した袴、彦根藩領内の村の文書、旧彦根藩士で明治期に政界で活躍した人物に関係する文書など、実に多彩な資料の寄贈を受けております。

これら資料の多くは、各々のご家庭等で長年大切に保管され、受け継がれてきたものです。その思い受け継ぎ、それぞれの資料を丹念に調べ、成果を公にしていくのが、寄贈を受けた当館の努めだと思えます。



平成 22 年度 「古文書のみかた」 受講生募集

古文書解説を基礎から学ぶ教室「古文書のみかた」の受講者を募集します。

開講日時

5月15日、6月12日、7月17日、8月21日、
9月18日、10月16日、11月13日、12月18日
(全8回、いずれも土曜日)の14:00~16:00

場所

本館講堂

定員

80名 (応募者が定員を超えた場合は抽選)

資料代

500円

申込方法

往復ハガキ(1人につき1枚)の往信に住所・氏名・電話番号を、往信の宛名面に住所・氏名を明記の上、お申し込み下さい。

募集期間

平成22年3月31日(水)まで 当日消印有効

*今年度より初級・中級と分けず、通年での開催となります。
9月の募集はありませんのでご注意ください。

平成 22 年度 支援スタッフ募集

支援スタッフとは、当館が主催する事業へ参加し、当館をサポートする活動をしていただく方々です。さまざまな人とふれあいながら、博物館と一緒に盛り上げていただけるスタッフを募集します。

活動内容

- ①小学生対象体験教室「キッズサマースクール」のグループリーダー(体験メニューの指導・補助)
- ②能・狂言公演の運営スタッフ(受付、会場案内、会場・駐車場整理など)
- ③古文書解説ボランティア(彦根藩井伊家文書等の古文書解説)

募集人員

①②③ともに5名程度

*①②③すべてを兼ねて登録いただくこともできます。

*③は、当館開催教室「古文書のみかた(中級)」を終了された方および同程度の解説力を有する方が登録いただけます。

申込方法

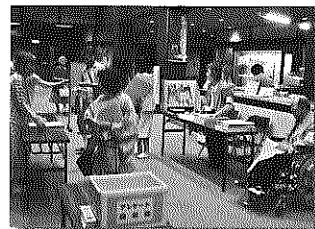
当館「支援スタッフ」係まで電話でお申し込みください(0749-22-6100)。

募集期間

平成22年(2010年)3月26日(金)まで

支援スタッフとして活動される方は、4月以降に開催する研修を必ず受講していただきます。

*詳細については、電話でお問い合わせください。



スケジュール

3月	4月	5月	6月
6± 大名カルチャー学講座② 「甲冑・茶道具の伝来 —近代編—」 13± ギャラリートーク 「井伊家伝来・能の小道具」 20± 古文書のみかた(中級)⑥	17± ギャラリートーク 「国宝・彦根屏風」	15± 古文書のみかた① 22± ギャラリートーク 「鬼神と霊—能にみる異界—」	12± 古文書のみかた② 19± ギャラリートーク 「激動の佐和山城 —群雄割拠の時代—」 19± 彦根城表御殿 水無月狂言の集い
直彌発見! 巻の10 「弥千代の雛と 婚礼調度」 ～3/9火	テーマ展 「井伊家伝来 ・能の小道具」 3/12金～4/13火	テーマ展 「国宝・彦根屏風」 4/16金～5/18火	テーマ展 「鬼神と霊 —能にみる異界—」 5/21金～6/15火
			シリーズ戦国 巻の1 「激動の佐和山城 —群雄割拠の時代—」 6/18金～7/27火

展示

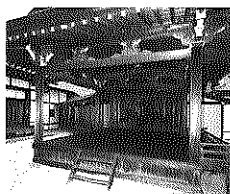
“ほんもの”との出会い —井伊家伝来の名宝を中心に80点あまりを展示—

◎特集コーナー「直彌のこころ」～4/12

*3/9～11、4/13～15、5/18～20、6/15～17は展示室のため一部閉室

催し

初夏の夕べ
大蔵流狂言茂山千五郎家による
伝統の笑いに興じる —



彦根城表御殿 水無月狂言の集い

6月19日(土)
午後6時30分開演
本館 能舞台

演目・出演

◆大蔵流狂言

「福の神」 茂山 千作 ほか
「附子」 茂山七五三 ほか
「鎌腹」 茂山千五郎 ほか

解説 茂山 正邦

博物館友の会 会員募集

彦根城博物館友の会では、平成22年度の新規会員を募集しています。博物館をより身近に感じることができる友の会に入会し、歴史や文化との出会いを楽しみませんか。

◆年会費◆

個人会員 2,000円
個人会員(高校生) 1,000円
ジュニア会員(小中学生) 500円
賛助会員 1口10,000円(1口以上)

◆特典◆

- ・会員証で常設展・企画展が観覧できます。(賛助会員の会員証では10名まで)
- ・友の会主催の講演会や見学会に参加できます。
- ・友の会ニュースを送付し、当館に関わる様々な情報をお届けします。

◆入会方法◆

当館受付にある入会申込書をご利用ください。ご希望の方は郵送いたしますので、お問い合わせください。

◆問い合わせ先◆

彦根城博物館友の会事務局(彦根城博物館内)
TEL0749-22-6100 *事務局は水曜日のみ

5月19日(水)チケット発売開始

本館受付および電話予約にてお求めいただけます

全席指定 A席(正面席) 3,500円
B席(脇正面席) 3,000円

発売初日は、窓口販売は午前9時、電話予約は午前10時から開始します。

*お1人様、チケット6枚までお求めいただけます。

*開演時刻・演目・出演者等は、都合によりやむなく変更することがございますので、ご了承ください。

*未就学児の入場はお断りいたします。